

指先穿刺による事前検査の実施について

赤十字血液センターでは、採血副作用の低減を目的として、世界的に多くの国で実施されている指先穿刺による事前検査の導入を進めてまいりました。

大分県でも、指先穿刺による事前検査を10月13日より導入致します。

つきましては、下記資料をご覧ください、ご理解とご協力のほどお願いいたします。

指先穿刺によって期待される効果

- ◎従来と異なり事前検査の際の血管選定が不要となるため、本採血の血管の選択が容易になります。
- ◎穿刺器具の取り扱いが簡便であり、採血時間の短縮が期待できます。
- ◎試験導入時の調査では、約57%の献血者が「従来より痛みが少ない」と答えており、穿刺による痛みの低減が期待できます。
- ◎指先穿刺で使用する穿刺器具は、使用後に針がホルダーに格納されるため、針刺し事故の防止や、感染対策へより一層の効果が期待できます。

【痛みについて】

痛みの感じ方には個人差がございますが、穿刺後一定時間で痛みは消失します。

なお、長く続く痛みの原因として皮下出血による影響もあることから、穿刺部位を3分程度しっかり圧迫止血していただく事が予防につながります。

指先から少量の血液を採取する方法

◎誤穿刺防止機能付穿刺器具（「ランセット」）で指先の側面を穿刺します。

（写真①）（写真②）

◎得られた血液を用いて、簡易型ヘモグロビン測定装置で血色素量を測定します。（写真③）（写真④）

◎指先に止血用絆創膏を貼付し、穿刺部位を3分程度しっかり圧迫止血していただきます。（写真⑤）

◎個人差はございますが、一定時間で痛みは消失し止血が完了します。

（写真⑥）



（写真①）



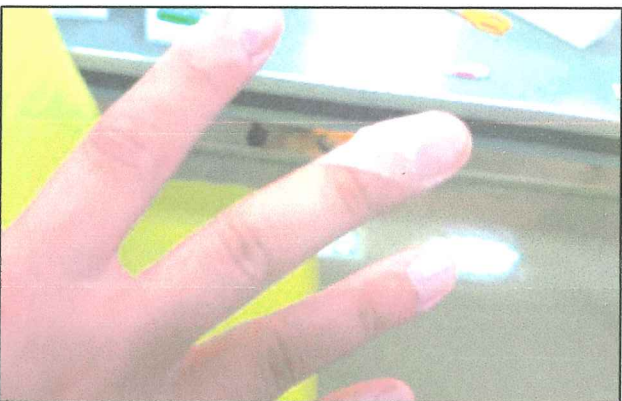
（写真②）



（写真③）



（写真④）



（写真⑤）



穿刺後30分経過

（写真⑥）